

科目名	医療と文学 Literature & Medicine		担当教員 (研究室番号)	ドライデン いづみ (502)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	2年次 後期	科目 区分	教養・基礎科目		選択 区分	選択	単位数 (時間)	2(30)	授業 形態	講義	科目等 履修生	可
											オプ/ウ/ス	可
科目 目的	グローバルな視野から医療や看護について考察するために、英文で書かれた医療文学作品、特に近代看護の母フローレンス・ナイチンゲールの出身地であるイギリスの医療文学作品(脳神経科医でノンフィクション・ライターのオリバー・サックスのベストセラーとなった『火星の人類学者 脳神経科医と7人の奇妙な患者』を中心に、病気を描く劇作家・詩人ウィリアム・シェクスピアからノーベル賞作家カズオ・イシグロまで)を読み、患者の視点、家族・友人の視点、医療従事者の視点から、登場人物の感情・様々な症例・病状を考察・分析する。また、医療文学作品におけるキーワード(フレーズ)に注目し、作家の意図や看護・医療事情を把握し、国際社会において1人の人間として、或いはプロの看護師・医療従事者としての在り方、及び患者への対応方法を様々な視点からの確に判断できるようになる。											
ディプロマ・ポリシー (DP)	主要なDP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解)										
	関連するDP	A 人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観に基づいて行動することができる。(姿勢・態度) C 多様な考え方や文化的背景を持つ人々の特徴に応じて、自らの看護活動の必要性や方法を説明するためのコミュニケーション能力を有している。(技能・表現)										
到達 目標	1. 医療文学の内容理解とともに、症例や病状、医療従事者の特徴を捉え、作品内容を様々な視点から考察・分析する技術を身に付け、国際社会において自らの考えや展望を説明することができる。 2. 医療用語(看護師や医療従事者が使用する言葉・フレーズ)と日常用語(言葉・フレーズ)や、章・パラグラフごとに内容を考察し、キーワード(フレーズ)や要点に言及しながら、現代における医療事情・問題・解決策・展望をグループ討議で発表することができる。 3. 各作品の内容や登場人物の背景・言動・感情に言及して、例を挙げて自らの意見を論理的に考察及び述べるができる。											
成績評価方法 (基準)	グループ・ディスカッションでの発表(30%) 各回の授業課題提出(60%) レポート課題(10%) ※レポート課題については、ルーブリックを用いて評価する。											
再試験の有無と 基準等	・無:毎回のグループ・ディスカッションでの発表や、各回の授業課題、およびレポート課題によって評価するため、再試は不可能。											
教科書	オリバー・サックス 『火星の人類学者 脳神経科医と7人の奇妙な患者』(An Anthropologist on Mars: Seven Paradoxical Tales) 吉田利子訳 早川書房 ISBN:978-4-15-050251-5											
参考書等	Sacks, Oliver. <i>An Anthropologist on Mars: Seven Paradoxical Tales</i> . Picador, 1995. ISBN:0-330-34347-5 堀田鏡『病気を描くシェイクスピア エリザベス朝における医療と生活』集英社 ISBN:978-4-8342-5314-6 Peterson, Kaara L. <i>Popular Medicine, Hysterical Disease, and Social Controversy in Shakespeare's England</i> . Routledge, 2016. Dalrymple, Theodore (editor). <i>The Best Medicine: Stories of Healing</i> . Alfred A. Knopf, 2021. 他、授業中に適宜紹介し、各回の授業内容の関連資料を配布する。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と 学生への期待	医療文学読解のための医療専門用語や読解力を習得しながら、国際社会において看護師・医療従事者の在るべき姿・医療の在るべき形・問題点・解決策・将来展望を患者・家族及び友人・医療従事者の視点から考察する。また、チーム基盤型学習(TBL: Team Based Learning)を取り入れ授業を進めるので、チームのメンバーとして責任を持って積極的に自らの意見を発言し、グループ・ディスカッションや毎回の課題に取り組むこと。											
備考	医療文学作品の読解力向上のため、多読を推奨する。課外学習として、図書館や担当教員研究室に設置の医療文学書籍を読み、意見・感想文を記述・提出すると、エキストラ・ポイントとして成績評価に加算する(提出枚数制限無し)。詳細は1回目授業にて説明する。											
回	学習項目		学習内容							主担当 教員	授業 方法	
1回	イントロダクション		授業の進め方、教科書、出欠席の扱い、成績評価に関する説明をする。チーム(グループ)を決め、チーム・ワーク(グループ・ディスカッション)の方法を説明する。「備考」欄に記載した課外学習についても説明する。イギリス出身の脳神経科医でノンフィクション・ライターのオリバー・サックスの生涯と作品について配布資料とともに説明し、視聴覚教材にて作家の声と話を実際に聴き、生き延びるために人間に備わっている再構築と適応の能力についてチーム・メンバーと討議し、発表する。							ドライ デ ン	講義 演習	
2回	オリバー・サックス 『火星の人類学者 脳神経科医と7人の奇妙な患者』: 1. 「色盲の画家」		「色盲」について、症状や色の無い世界を考察し、色を扱う画家が色盲になるとはどういう状況か、患者・友人及び家族・医療従事者の視点から、患者のアイデンティティや内的な世界をキーワード(フレーズ)とともに考え、医療従事者としての支援・医療形態・問題点・解決策・将来展望をチーム・メンバーと討議し、発表する。							ドライ デ ン	講義 演習	
3回	オリバー・サックス 『火星の人類学者 脳神経科医と7人の奇妙な患者』: 2. 「最後のヒッピー」		「記憶障害・健忘症・盲目・前頭葉(脳)腫瘍・ふざけ症」について、症状や患者の言動に注目し、患者・友人及び家族・医療従事者の視点から、患者の身体・精神変化や内的な世界をキーワード(フレーズ)とともに考え、医療従事者としての支援・医療形態・問題点・解決策・将来展望をチーム・メンバーと討議し、発表する。							ドライ デ ン	講義 演習	
4回	オリバー・サックス 『火星の人類学者 脳神経科医と7人の奇妙な患者』: 3. 「トウレット症候群の外科医」		外科医が「トウレット症候群」であること、千人に一人といわれるトウレット症候群の症状や特徴に注目し、患者・友人及び家族・医療従事者の視点から、憑依現象や自我への影響・原始的で強烈な感情についてキーワード(フレーズ)とともに考察し、医療従事者としての支援・医療形態・問題点・解決策・将来展望をチーム・メンバーと討議し、発表する。							ドライ デ ン	講義 演習	
5回	オリバー・サックス 『火星の人類学者 脳神経科医と7人の奇妙な患者』: 4. 「「見えて」いても「見えない」		「白内障・色素性網膜炎」について、症状や患者の言動に注目し、患者・友人及び家族・医療従事者の視点から、患者の身体・精神変化や内的な世界をキーワード(フレーズ)とともに考え、医療従事者としての支援・医療形態・問題点・解決策・将来展望をチーム・メンバーと討議し、発表する。							ドライ デ ン	講義 演習	
6回	オリバー・サックス 『火星の人類学者 脳神経科医と7人の奇妙な患者』: 5. 「夢の風景」		「癲癇・側頭葉癲癇・ドストエフスキー症候群・白昼夢・幻覚」について、症状や患者の言動に注目し、患者・友人及び家族・医療従事者の視点から、患者の身体・精神変化や内的な世界をキーワード(フレーズ)とともに考え、医療従事者としての支援・医療形態・問題点・解決策・将来展望をチーム・メンバーと討議し、発表する。							ドライ デ ン	講義 演習	

7回	オリバー・サックス 『火星の人類学者 脳神経科医と7人の奇妙な患者』：6. 「神童たち」	「自閉症・サヴァン症候群」について、症状や患者の言動に注目し、患者・友人及び家族・医療従事者の視点から、患者の身体・精神変化や内的な世界をキーワード（フレーズ）とともに考え、医療従事者としての支援・医療形態・問題点・解決策・将来展望をチーム・メンバーと討議し、発表する。物語に登場する自閉症児の絵を描く才能と実際に出版された画集を紹介・説明する。	ドライデ ン	講義 演習
8回	オリバー・サックス 『火星の人類学者 脳神経科医と7人の奇妙な患者』：7. 「火星の人類学者」	「自閉症・アスペルガー症候群・情緒的問題」について、症状や患者の言動に注目し、患者・友人及び家族・医療従事者の視点から、患者の身体・精神変化や内的な世界をキーワード（フレーズ）とともに考え、医療従事者としての支援・医療形態・問題点・解決策・将来展望をチーム・メンバーと討議し、発表する。	ドライデ ン	講義 演習
9回	オリバー・サックスの他の作品と作品中で取り上げられている症状や病状の紹介・説明	オリバー・サックスの他の作品として、自伝の『道程』、映画化された『レナードの朝』、『妻を帽子とまちがえた男』、『幻覚の脳科学 見てしまう人びと』、『音楽嗜好症』、『偏頭痛百科』、『手話の世界へ』を作品中で取り上げられている症状や病状とともに紹介・説明する。チーム・メンバーと実際の作品や配布資料を確認し、今後読んでみたい作品タイトルと、知りたい症状・病状について討議し、発表する。	ドライデ ン	講義 演習
10回	劇作家・詩人ウィリアム・シェークスピアの作品における看護・病態・医療従事者・医療文化	配布資料を読んで、エリザベス朝におけるイギリスの医療と生活について学び、各作品における看護行為・病態や医療表現とともに、登場人物の感情や医療表現に隠された意図について考察する。チーム・メンバーと今後読んでみたい作品タイトルと、作品中で取り上げられている症状・病状で情報収集や調査してみたい病名を討議し、発表する。	ドライデ ン	講義 演習
11回	小説家チャールズ・ディケンズの作品における看護・病態・医療従事者・医療文化	配布資料を読んで、ヴィクトリア朝におけるイギリスの医療と生活について学び、各作品における看護行為・病態・医療表現とともに、登場人物の感情や医療表現に隠された意図について考察する。チーム・メンバーと今後読んでみたい作品タイトルと、作品中で取り上げられている症状・病状で情報収集や調査してみたい病名を討議し、発表する。	ドライデ ン	講義 演習
12回	作家ジョージ・オーウェルの作品における看護・病態・医療従事者・医療文化	配布資料を読んで、植民地時代のイギリスと他国の医療と生活事情の違いについて学び、作品における看護行為・病態・医療表現とともに、登場人物の感情や医療表現に隠された意図について考察する。チーム・メンバーと作品の中で言及描写されるテニソンの詩「小児病院」やディケンズの『オリバー・ツイスト』の状況について討議し、発表する。	ドライデ ン	講義 演習
13回	作家アーサー・コナン・ドイルの作品における看護・病態・医療従事者・医療文化	配布資料を読んで、医師としてのドイルの生涯と作品について学び、作品における看護行為・病態・医療表現とともに、登場人物の感情や医療表現に隠された意図について考察する。チーム・メンバーと作品の中で言及描写される医療状況について討議し、発表する。	ドライデ ン	講義 演習
14回	小説家カズオ・イシグロの作品における看護・病態・医療従事者・医療文化	配布資料を読んで、ノーベル賞作家イシグロの生涯と作品について学び、作品における看護行為・病態・医療表現とともに、登場人物の感情や医療表現に隠された意図について考察する。チーム・メンバーと作品の中で言及描写される医療行為や人権について討議し、発表する。	ドライデ ン	講義 演習
15回	まとめ：医療と文学の関係について フローレンス・ナイチンゲールの愛読書と作家・作品への言及・引用文	授業で学習した内容も含めて、看護師・医療従事者として読んでおきたい医療文学作家・作品リストを配布し説明する。レポート課題の説明をする。	ドライデ ン	講義 演習

学 習 課 題	
1回目事前課題：医療文学についてその時点で知っていることをメモしておく。	1回目事後課題：配布資料に目を通し、授業内容の確認をしておく。
2～8回目事前課題：前週の授業で学んだ内容を思い出しながら教科書にメモをしてまとめておく。	2～8回目事後課題：配布資料から学んだことやチーム・メンバーとグループで要約した内容を思い出し、自らの意見や考えを次週の授業までにTeamsの「課題」に提出する（各回30～40点）。
9～15回目事前課題：前週の授業で学んだ内容を思い出しながらメモをしてまとめておく。	9～15回目事後課題：配布資料から学んだことやチーム・メンバーとグループで要約した内容を思い出し、自らの意見や考えを次週の授業までにTeamsの「課題」に提出する（各回30～40点）。
尚、15回目及びレポート課題（配点100点）は、Teamsの「課題」に設定された期日までに提出する。	

実務経験を活かした教育の取組	